CENTER FOR TOURISM RESEARCH

2023年度

年次報告書

和歌山大学

国際観光学研究センター

Contents

1. 国際観光学研究センター(CTR)について・・・・・・・・・・2
1.1. ミッション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
1.2. ビジョン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
1.3. 研究推進におけるキーワード・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
1.4. 目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
1.5. Tourism & SDGs・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
1.6. 組織体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
1.6.1. 組織図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
1.6.2. 運営機関・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
1.6.3. CTR研究員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
1.6.4. CTR研究ユニット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
1.7. 活動内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
1.7.1. 研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
1.7.2. 研究・教育サポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
1.7.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

2. 活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
2.1. 研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
2.1.1. 主な研究プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
2.1.2. 出版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
2.1.3. 短期研究員招へい制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
2.1.4. 「2023年度CTRリサーチフォーラム」開催・・・・・・・・・・・・・・・・23
2.1.5. イベントの企画・運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
2.2. 研究・教育サポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
2.2.1. 研究力養成支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
2.2.2. イベント開催支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
2.2.3. 観光学部等授業科目の開講支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
2.2.4. 委託事業「JICA課題別研修」実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
2.2.5. 海外研究教育機関との提携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
2.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
2.3.1. 学会スポンサー参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
2.3.2. 外部機関との連携促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
2.3.3. イベント開催協力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
2.3.4. 学会、イベント参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
2.3.5. 運営・企画イベント一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

1. 国際観光学研究センター(CTR)について

1.1. ミッション

観光学研究の高度化を通じて、
健全で持続可能な社会の発展に寄与する。

1.2. ビジョン

倫理と責任ある観光発展に重きを置く、
アジア太平洋地域を牽引する研究機関を
確立する。

1.3. 研究推進におけるキーワード

- Ethics and Responsibility
- Diversity and Equity
- Community and Environment

1.4. 目標

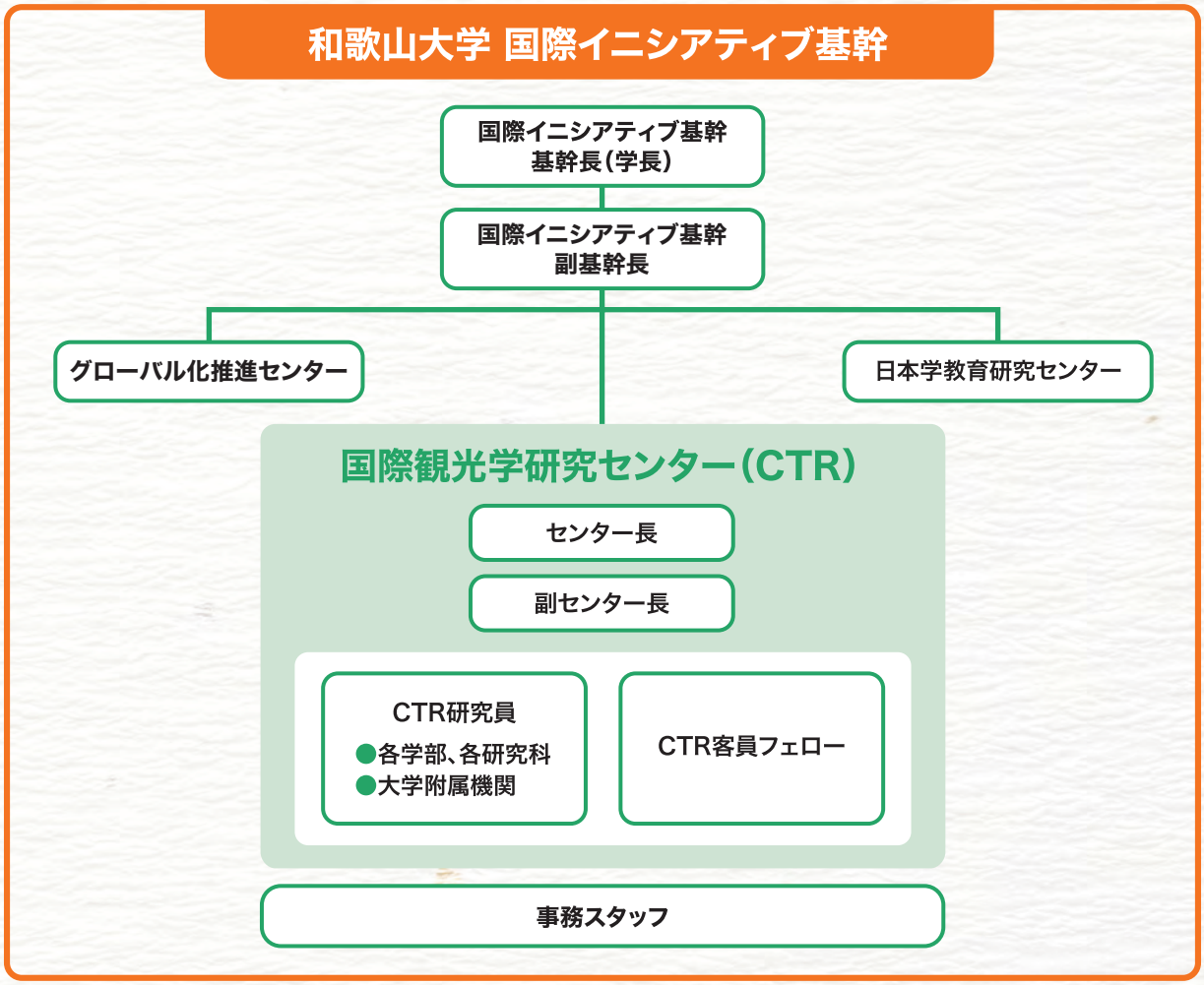
- 国内外の観光におけるステークホルダーとの連携強化
- サステナビリティを支援する研究活動を通じた、倫理的かつ責任ある観光活動の促進
- 学内外における活発な研究文化の醸成
- 観光教育の支援
- 大学内のグローバル化に貢献

1.5. Tourism & SDGs

国連の掲げる「持続可能な開発目標（SDGs)」
の達成に観光を通じて貢献していく。

1.6. 組織体制

1.6.1. 組織図



2024年3月現在

1.6.2. 運営機関

国際イニシアティブ基幹推進会議	全学のグローバル化推進を踏まえた戦略方針・企画の立案・管理。
CTR 運営委員会	日常的な意思決定及び、事業計画管理・評価。

1.6.3. CTR研究員

CTR研究員（計41名）	和歌山大学客員教授	4名
	CTR専任研究員	1名
	CTR併任研究員	観光学部26名、学内他学部等10名
CTR客員フェロー（計80名）	CTR名誉フェロー	2名
	CTR客員フェロー	68名
	CTR客員ジュニアフェロー	10名

研究員一覧

1.6.3.1 CTR研究員

2024年3月現在

＜和歌山大学客員教授＞

CHEER, Joseph M.	和歌山大学 客員教授、Professor, Western Sydney University (Australia)
MILLER, Graham	和歌山大学 客員教授、Professor, NOVA School of Business and Economics (Portugal)
RITCHIE, Brent W.	和歌山大学 客員教授、Professor, The University of Queensland (Australia)
SHARPLEY, Richard	和歌山大学 客員教授、Emeritus Professor, University of Central Lancashire (UK)

＜CTR専任研究員＞

ZAINAL ABIDIN, Husna	国際観光学研究センター 特任講師

＜CTR併任研究員＞

CHAKRABORTY, Abhik	観光学部 准教授
DOERING, Adam	観光学部 准教授
秋山　演亮	イノベーションイニシアティブ基幹 教授
足立　基浩	副学長、経済学部 教授
井伊　博行	システム工学部 教授
上野　美咲	経済学部 講師
遠藤　理一	観光学部 講師
大浦　由美	観光学部 学部長、教授
尾久土　正己	理事（副学長）、観光学部 教授
香月　義之	観光学部 専門職大学院 教授
加藤　久美	観光学部 教授
木川　剛志	観光学部 教授
岸上　光克	学長補佐、経済学部 教授、食農総合研究教育センター センター長
北村　元成	観光学部 教授
佐々木　啓	観光学部 助教
佐々木　壮太郎	観光学部 教授
佐藤　祐介	教育機構 教養教育部門 講師
佐野　楓	観光学部 准教授
澤田　知樹	観光学部 准教授
柴本　百合香	観光学部 特任助教
竹田　明弘	社会インフォマティクス学環 教授
竹林　明	観光学部 教授
竹林　浩志	観光学部 教授
辻本　勝久	経済学部 教授
出口　竜也	観光学部 教授
富田　晃彦	教育学部 教職大学院 教授
永井　隼人	観光学部 准教授
永瀬　節治	観光学部 准教授
中元　一恵	国際交流課 課長
東　悦子	観光学部 教授
堀田　祐三子	観光学部 教授
松田　敏幸	観光学部 専門職大学院 特任教授
八島　雄士	観光学部 教授
山岸　大二郎	観光学部 特任助教
吉田　道代	観光学部 教授
吉野　孝	システム工学部 教授

1.6.3.2 CTR客員フェロー

敬称略（2024年3月現在）

＜CTR名誉フェロー＞

特別主幹研究員は、観光学の発展・確立に向けた包括性・普遍性の高い研究課題を有し、その裏付けとなる優れた研究実績を有する研究員をいう。

大橋　昭一	和歌山大学 名誉教授
山田　良治	和歌山大学 名誉教授

＜CTR客員フェロー＞

CTR 客員フェローは、国内外の大学教員または一定の研究経験を有するものとし、CTR 研究員との共同研究を行うもの、CTR での研究プロジェクトへ参加するものとする。

ALIPERTI, Giuseppe	Assistant Professor, Tourism Department, University of Deusto (Spain)
COMERIO, Niccolò	Research Fellow, School of Economics and Management, LIUC Università Cattaneo (Italy)
DALE, Naomi F	Professor, Faculty of Business, Government & Law, University of Canberra (Australia)
DRUMMOND, Damon	Graduate Researcher, Flinders University (Australia) / Adjunct Lecturer, Keio University (Japan)
LIN, Si-Shyun Joseph	Associate Professor, Dept. of Restaurant, Hotel and Institutional Management, Fu Jen Catholic University (Taiwan)
PEREIRA-DOEL, Pablo	Lecturer; Digital Lab Commercialisation Officer; ESRC-SeNSS Research Fellow; Sustainability Fellow, Institute for Sustainability, University of Surrey (UK)
PHAM, Linh L D	Lecturer, Hospitality and Tourism, Hanoi University (Vietnam)
PROGANO, Ricardo Nicolas	元和歌山大学国際観光学研究センター 講師
SCARLES, Caroline	Professor; Director of Centre of Digital Transformation in the Visitor Economy, School of Hospitality and Tourism Management, University of Surrey (UK)
THAM, Aaron	Lecturer in Tourism, Leisure and Events Management, University of the Sunshine Coast (Australia)
TUOMI, Aarni	Senior Lecturer, Haaga-Helia University of Applied Sciences (Finland)
WANG, Jie	Senior Lecturer, Business School, The University of Queensland (Australia)

ZAINAL ABIDIN, Nurdiyana	Senior Lecturer, Department of Architecture, Faculty of Built Environment, Universiti Malaya (Malaysia)
石川　肇	京都日本文化資源研究所 所長
磯田　悠	和歌山県庁
井出吉　成佳	広島市立大学 国際学部国際学科 准教授
伊藤　央二	中京大学 スポーツ科学部 准教授
今井　裕子	コムサポートオフィス 代表
岩橋　克彦	紀美野町役場 職員
上原　史子	岩手県立大学 講師
内ケ島　友章	村松将太法律事務所事務局
大井　達雄	立正大学 データサイエンス学部 教授
大野　一	国土交通省 観光庁 旅行振興参事官付
岡田　美奈子	一般社団法人地域観光研究所 主任研究員
小川　勝久	大阪芸術大学 写真学科 客員教授
小野　綾子	女子美術大学 助手（助教）
小原　満春	沖縄国際大学 産業情報学部 准教授
柏木　翔	神奈川大学 国際日本学部国際文化交流学科 助教
鎌田　裕美	一橋大学 大学院経営管理研究科 准教授
神野　真一	ソーシャルイノベーターラボ 所長
唐﨑　翔太	島旅農園「ほとり」経営
神田　孝治	立命館大学 文学部 教授
金　宰煜	広島大学大学院 人間社会科学研究科 講師
権　純珍	倉敷芸術科学大学 危機管理学部 教授

黒田　有彩	株式会社アンタレス 代表取締役
間中　光	追手門学院大学 地域創造学部 講師
小柴　恵一	株式会社 G1company 代表取締役
斎藤　望	富山福祉短期大学 国際観光学科 教授
齊藤　広晃	立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 准教授
坂西　明子	立命館大学 政策科学部 教授
笹森　琴絵	酪農学園大学 特任准教授、海洋生物調査員
佐野　宏樹	立命館大学 経営学部 准教授
淑瑠　ラフマン	金沢大学 先端科学・地域共創推進機構 特任助教
杉山　幹夫	株式会社サン広告社 シニアプロデューサー
宋　謙	公益財団法人九州経済調査協会 上級研究員
蘇　哲仁	Distinguished Research Professor, Department of Restaurant, Hotel and Institutional Management, Fu Jen Catholic University (Taiwan)
田中　光敏	大阪芸術大学 映像学科 教授、映画監督、CMディレクター、クリエイターズユニオン 代表取締役
曺　禎敏	ユタカ交通株式会社
陳　意玲	国立屏東大学 休閒事業経営学系 助理教授（台湾）
豊島　茂	九州産業大学 地域共創学部 非常勤講師
永田　修一	関西学院大学 商学部 准教授
長野　史尚	九州医療スポーツ専門学校 教育職員
中村　仁	跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 准教授
東島　達也	和歌山県庁
藤原　久嗣	広島経済大学 准教授

堀込　孝二	大阪国際大学 人間科学部 スポーツ行動学科 講師、 特定非営利活動法人スポーツファンデーション 代表理事
牧野　恵美	立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 准教授
牧野　光朗	ORNIS 株式会社 代表取締役社長 COO
宮口　直人	株式会社ビズユナイテッド 代表取締役
森　清顕	清水寺 執事補
森越　京子	北星学園大学短期大学部 教授
森田　由樹子	株式会社エコロの森 代表取締役
簗田　香織	白鴎大学 経営学部 専任講師
山本　訓弘	株式会社 MydoMind Ltd. 代表取締役
山本　道雄	関西テレビ放送株式会社 主任
吉田　潔	M&R 地域マーケティング研究所 代表
米田　晶	富山福祉短期大学 国際観光学科 准教授
李　只香	九州共立大学 経済学部 教授

＜CTR客員ジュニアフェロー＞

CTR 客員ジュニアフェローは、原則として、国内外の大学院修士課程及び博士課程在籍中の学生もしくは、修士課程修了後、CTR 研究員との共同研究やCTR での研究プロジェクトへ参加するものとする。修士課程及び博士課程在籍中の学生については、在籍大学の指導教員の許可を受ける必要がある。なお、当該研究により単位を付与することはない。

KAFUKESE, Christina Joy	和歌山大学大学院観光学研究科 博士前期課程
NGOC, Le Bao	和歌山大学大学院観光学研究科 博士後期課程
ZAINAL ABIDIN, Nabilah	PhD Researcher, Universiti Teknologi Malaysia (Malaysia)
明山　文代	和歌山大学大学院観光学研究科 博士後期課程
澤田　幸輝	和歌山大学大学院観光学研究科 博士後期課程
橘　昌尚	和歌山大学大学院観光学研究科 博士後期課程
孫　昊	和歌山大学大学院観光学研究科 博士後期課程
中谷　勤	元高校教員
中村　勇太朗	和歌山大学 観光学部 非常勤講師
平井　千惠	一般社団法人市駅グリーングリーンプロジェクト 理事

1.6.4 CTR研究ユニット

CTRでは３つの研究ユニットを組織しており、共同研究や研究会等の活動は「経営 / Management」「地域 / Community」「文化・遺産 / Culture & Heritage」の各ユニットを軸に行っている。なお、CTR研究員（客員フェローを除く）はいずれかのユニットに所属し、研究プロジェクトは複数のユニットにまたがることもある。

経営｜Managementユニット

概要	観光・ホスピタリティ産業及び観光地の経営戦略、マーケティング、リスクマネジメント、イノベーションを主な研究分野とする。研究活動を通じて政策立案及び戦略の策定に貢献し、観光地及び観光・ホスピタリティ産業の持続可能な競争優位の構築を目指す。
メンバー	Giuseppe Aliperti、Christina Joy Kafukese、Niccolò Comerio、Naomi F Dale、Pablo Pereira-Doel、Linh L D Pham、Brent W. Ritchie、Caroline Scarles、Lin Joseph Si-Shyu、Aaron Tham、Aarni Tuomi、Jie Wang、Husna Zainal Abidin、足立　基浩、伊藤　央二、上野　美咲、上原　史子、柏木　翔、鎌田　裕美、神野　真一、金　宰煜、権　純珍、間中　光、齊藤　広晃、佐々木　壮太郎、佐野　楓、杉山　幹夫、蘇　哲仁、孫　昊、竹田　明弘、竹林　明、竹林　浩志、陳　意玲、辻本　勝久、出口　竜也、永井　隼人、長野　史尚、中村　仁、東島　達也、堀込　孝二、牧野　恵美、宮口　直人、森越　京子、八島　雄士、山岸　大二郎、山本　訓弘、吉田　潔、李　只香

地域｜Communityユニット

概要	地域貢献型地方国立大学である和歌山大学にとって，地域社会は切り離せない観光研究の場である。地域社会や地域経済との関わりという観点から観光現象を把握し、「まちづくり」や「地域活性化」といったアプローチで観光開発に関する調査・研究を行う。
メンバー	Abhik Chakraborty、Joseph M. Cheer、Adam Doering、Graham Miller、秋山　演亮、井伊　博行、石川　肇、大浦　由美、小川　勝久、尾久土　正己、小野　綾子、香月　義之、岸上　光克、黒田　有彩、小柴　恵一、齋藤　望、佐々木　哲、佐藤　祐介、澤田　知樹、永瀬　節治、中元　一恵、堀田　祐三子、松田　敏幸、牧野　光朗、吉野　孝

文化・遺産｜Culture & Heritageユニット

概要	観光現象を文化論的な観点から探求していく他、文化遺産のマネジメントや保全及び開発に関する広い課題について、クリエイティブツーリズムなどの新しいアプローチも取り入れる。歴史的地域、建造環境や都市、農村や農業景観、自然環境、特徴ある文化が存続する地域及び無形遺産の保全や再生なども課題とする。
メンバー	Ricardo Nicolás Proganò、Richard Sharpley、Nabilah Zainal Abidin、Nurdiyana Zainal Abidin、遠藤　理一、加藤　久美、神田　孝治、木川　剛志、北村　元成、柴本　百合香、田中　光敏、富田　晃彦、東　悦子、森　清顕、吉田　道代

1.7. 活動内容

1.7.1. 研究活動

●研究プロジェクト

◆科学研究費助成事業採択研究課題

◆ CTR 研究員向け研究支援プロジェクト

●短期研究員招へい制度

●「2023年度CTRリサーチフォーラム」開催

●イベント企画・運営

◆「CTR 観光教育フォーラム」

◆「CTR International Symposium Series 2023-2024」

●論文集「Wakayama Tourism Review」出版

1.7.2. 研究・教育サポート

●研究プロジェクト助成

◆ CTR 研究員向け研究支援プロジェクト

●研究力養成支援

●研究環境整備

◆主要図書（電子ジャーナル含む）整備

◆研究成果公開促進インセンティブ制度

◆研究関連情報提供

●イベント開催支援

●観光学部授業科目の開講支援

●委託事業「JICA課題別研修」実施

●外部機関との連携促進

●海外研究教育機関との連携拡充

1.7.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー

●学会スポンサー参加

◆ APTA Annual Conference 2023

◆ ICServ 2023

●外部機関との連携促進

◆ 観光庁主催「UN Tourism 活用検討会」参加

◆「CTR International Symposium Series 2023-2024」開催

●学会・イベント開催協力
●学会・イベント参加（研究発表、モデレーター、オブザーバー等）
●セミナー等のイベント企画・運営

2. 活動報告

2.1. 研究活動

2.1.1. 主な研究プロジェクト

2.1.1.1. 科学研究費助成事業採択研究課題

文部科学省及び日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業に採択され、CTR 研究員が代表者として取り組む研究プロジェクトは以下の通り（掲載希望課題のみ）。

研究種別	代表者	研究課題	研究分野
基盤研究C	Abhik Chakraborty	ポスト・パンデミック時代における持続可能な山岳観光の分析	観光学
	Adam Doering	Life, leisure and tourism in the wake of disaster: Investigating the role of surf tourism for post-tsunami coastal recovery	観光学
	Joseph M. Cheer	Post-Pandemic Rural Revitalization: Culture and Tourim for Recovery, Resilience and Regeneration	観光学
	足立　基浩	空間計量経済学を用いたコロナ期の観光需要に関する研究	観光学
	大浦　由美	企業の CSR 活動等を契機とした新たな地域観光の創出：「企業の森」事業に着目して	観光学
	尾久土　正己	わが国の天文観光の大衆化と夜空の美しさの内部化状況―工学的手法を取り入れた分析	観光学
	齊藤　広晃 (客員フェロー)	The role of staff breakrooms in employee's psychophysiological recovery, well-being, and performance	経営学
	富田　晃彦	天文を得意としない教師の授業運営改善とその国際的応用性の研究	科学教育
	堀田　祐三子	観光の社会的意義を問う―労働の変化と余暇・観光の階層性からのアプローチ	観光学
	吉田　道代	沖縄の若年労働市場におけるインバウンド観光の影響	人文地理学

研究種別	代表者	研究課題	研究分野
若手研究	Husna Zainal Abidin	Muslim-friendly tourism as a pathway for tourism recovery in Japan, post COVID19	観光学
	永井　隼人	Attitudes of non-host city residents toward a mega-event during the pre-event stage: A longitudinal study	観光学
挑戦的研究(萌芽)	遠藤　理一	観光が浮かび上がらせる移動のポリティクスークリティカル・ツーリズムの視点から	社会学およびその関連分野
国際共同研究強化(B)	加藤　久美	Enhancing Social-Ecological Resilience through Sustainable Tourism Governance in post-corona era: Traditional value-based approach for Community Vision, Capacity and Leadership.	社会学およびその関連分野
	齋藤　広晃(客員フェロー)	Inducing pro-environmental behavior in tourists for the sustainable development of Japan's tourism and hospitality industries	経済学、経営学およびその関連分野

2.1.1.2. CTR助成研究プロジェクト

CTR共同研究支援プログラムとは、CTRミッション「観光学研究の高度化を通じて健全で持続可能な社会の発展に寄与する」を踏まえ、優先目標(「倫理と責任ある観光発展に重きを置く、アジア太平洋地域を牽引する研究機関を確立する」)を考慮した研究プロジェクトを推進し、観光学研究の高度化・国際化を図ることを目的に、研究費助成を行うものである。本プログラムはCTR内部の競争的資金の位置づけで、下記のCTRの研究重点分野のいずれか及び下記のキーワードのいずれか、並びに国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」達成に貢献する内容であることを求める。

●研究の重点分野

①観光デスティネーション研究
②観光教育研究

●研究推進にあたるキーワード

Ethics, Resonsibility, Diversity, Equity, Community, Environment

2023年度に採択された4件のプロジェクト課題、概要および活動報告、実績は以下の通り。
なおCTRウェブサイトにも掲載している。
(https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/projects/ctrjrsupport/2023/index.html)。

プロジェクト課題　人工知能が観光客の知名度が低い観光地への旅行意図に与える影響に関する探索的研究

●プロジェクトメンバー（＊は代表者）

Husna Zainal Abidin*、佐野 楓、Pablo Pereira Doel

●概要

観光産業におけるデジタル技術の活用は、地域社会が観光を持続的に発展させるための新たな可能性を提供している。持続可能な観光の実現に向けたデジタル技術の活用について、これまでの研究の多くは、持続可能な開発目標を達成するために人工知能（AI）システムを如何に活用するか、持続可能なツーリズム・エコシステムに人工知能とその技術を如何に統合するかというマネジメントの視点からアプローチしてきたが、観光客視点からのアプローチが殆どなかった。そこで、本研究プロジェクトでは、技術の受容と使用の統一理論をフレームワークにして、デジタル技術が観光客の意思決定にどのような影響を与え、それに応じて責任のある観光行動を如何に形成させ、持続可能な観光開発につなげるのかを調査することを研究目的とする。本研究は、観光体験におけるAI 技術の応用に関する分野に貢献し、観光客の感情を理解するために生体認証法という新たな研究手法を観光学分野に適用することに意義がある。更に、本研究は技術的進歩を取り入れた持続可能な観光戦略を策定している日本の観光産業に、観光客のニーズによりよく理解するための実践的な指針を提供する。

●活動報告・実績

Zainal Abidin, H., Sano, K., Scarles, C., & Pereira-Doel, P. (2023, November 17) Tourists' Perceptions Towards Generative AI: The Case of ChatGPT and Tourism [Conference presentation]. Center for Tourism Research (CTR) CTR Research Forum 2023, Wakayama, Japan.

Zainal Abidin, H., Sano, K., Scarles, C., & Pereira-Doel, P. (2023). Tourists' Perceptions Towards Generative AI: The Case of ChatGPT and Tourism. Book of Abstracts CTR Research Forum 2023, Japan.

Zainal Abidin, H., Sano, K., & Scarles, C. (2023, December 1-4) Exploring tourists' perceptions on the use of generative AI: Using ChatGPT for travel planning to Japan [Conference presentation]. TTRA APAC Conference 2023, Seoul, South Korea.

Zainal Abidin, H., Sano, K., & Scarles, C. (2023). Exploring tourists' perceptions on the use of generative AI: Using ChatGPT for travel planning to Japan. Proceedings of the TTRA APAC Conference, Korea.

"Best Paper Award" at TTRA APAC Conference for "Exploring tourists' perceptions on the use of generative AI: Using ChatGPT for travel planning to Japan"

Sano, K., Zainal Abidin, H., & Scarles, C. (2024, March 5-7) 人工知能が観光客の旅行意思決定プロセスに与える影響 . [Conference Presentation]. サービス学会 第 12 回国内大会 於 筑波大学東京キャンパス

Sano, K., Zainal Abidin, H., & Scarles, C. (2024) 人工知能が観光客の旅行意思決定プロセスに与える影響 . サービス学会 第 12 回国内大会 学会論文集

プロジェクト課題　持続可能な観光地マネジメントに必要な “Educational” 観光映像の研究

●プロジェクトメンバー (＊は代表者)

木川 剛志 *、遠藤 理一、香月 義之、加藤 久美、小柴 恵一、蘇 哲仁、森 清顕

●概要

パンデミック後の観光地域のあり方が問われている。世界的に観光の理念が目指しているのは循環型社会であるが、実態は異なる。2023 年4 月現在、すでに大都市の主要な観光地には国外からの観光客が溢れており、この数年議論されてきた “ 質的な観光” よりも “ 量的な観光” へと回帰しつつある。この状況において観光映像の役割はさらに高まると考える。なぜならば、観光映像はPR 目的だけでなくそこにより良い観光を目指す “Educational” な視点を広く伝えるものだからである。このような観光映像の役割と今後のあり方を研究する。

●活動報告

「美しき人々、生きる学びの空間へ」をテーマに北海道釧路市阿寒湖において第６回日本国際観光映像祭を開催した。映像祭では観光映像の専門家、学者を中心に７つのフォーラムを開催し、優れた観光映像に賞を授与し、観光映像のあるべき姿を示した。また、今回の映像祭での知見を土台に、国際学会で２つの発表を行った。一つは研究代表者を筆頭とするもの、もう一つは連名としたものである。この発表は後日原稿を調整し、学術誌として発刊予定である。映像祭には日本部門 242 本、国際部門には 1036 本の応募があり、延べで 265 人の対面での参加があった。特に日本部門は過去最高の応募数であり、阿寒湖での開催にも関わらず 265 名の参加は快挙と言える。受賞のニュースは世界各国、日本各地でニュースとなっており、映像祭のプレゼンスが高まることとなった。

プロジェクト課題 | 吉田初三郎が描いた鳥瞰図による「古くて新しい観光」への誘い

●プロジェクトメンバー (＊は代表者)

東 悦子 *、石川 肇、Ricardo Nicolas Progano

●概要

大正時代から昭和初期にかけての観光ブームに吉田初三郎式鳥瞰図を用いた観光案内（印刷折本）が人気を博した。本研究は、初三郎式鳥瞰図そのものの研究、及びそれを地域観光に誘う手段として活用するパンフレットの作成までを含んだ実践的研究である。初三郎は全国各地を巡るなか、和歌山にも足を運び、和歌浦、白浜、高野山、熊野などを鳥瞰図に描いている。本研究では、和歌山県をモデルケースとして、第一段階として、独特のデフォルメと豊かな色彩で描かれた和歌山の観光名所の鳥瞰図から和歌浦及び高野山を分析する。第二段階は、それを資料として実地検分を行い、現在の当該地の状況と比較する。第三段階は、実地調査に基づき、初三郎式鳥瞰図を取り入れた観光パンフレットを作成し、当時の和歌山観光名所案内を現在の名所と比較しながらめぐるスローでレトロな旅へと人々を誘う。

●活動報告・実績

嗜好に合致するような『昭和レトロな和歌山案内―和歌山市・和歌浦編―』を編集し、かつての名所と比較しながら現在の観光地を巡るスローでレトロな旅へ誘うことを目的とした観光パンフレット（日本語版）を発行することができた。
現在、和歌山県立美術館や南海和歌山市駅に直結した和歌山市民図書館ビルの入り口で配布されるなどして一定の好評を得ている。個々に配布した場合には、大学生達からは、昭和レトロなイメージが「かわいい」との感想が多く、和歌山県在住のシニア層の場合は、鳥瞰図を見ながら、過去に自身が訪れた場所について話が弾み、現在は消失してしまったものについての記憶が呼び起こされる様子がみられた。また、外国人研究者からは、鳥瞰図への関心が示され、英語版を制作すべきだと助言があった。
以上のことから、観光教育やスローツーリズムへの導入手段として利用できる可能性伺え、今後、実際の利用方法の提案をしていく必要がある。

プロジェクト課題　サステナブル・ディスティネーション・マネジメントシステムを構築するためのメカニズムの探索：組織間連携の視座から

●プロジェクトメンバー（＊は代表者）

八島 雄士 *、金 宰煜、上原 史子、磯田 悠

●概要

日本においてSDGs やサステナビリティという用語が地域や企業等の組織に普及している。実際には、旅行者を受け入れる際に、何をどのように進めるのかは運営主体となる観光目的地に委ねられている。本研究は、Ritchie & Crouch(2003) が示した持続可能なツーリズムの考え方の１つであるSteps to Destination Success（StDS; 観光目的地が達成すべきステップ）に着目し、ビジョン設定、行動指針、実施計画などのディスティネーション・マネジメントシステムについて、組織間連携を視座に研究する。具体的には、九州オルレと宮城オルレについて、オルレ旅行者および観光供給側の組織間連携についてケーススタディの方法で調査・分析する。２つのオルレは、韓国の済州島を起源とし、「海岸線や山などの自然、民家の路地などを身近に感じ、自分なりにゆっくり楽しみながら歩く」ことをコンセプトとする済州オルレの姉妹版である。また、比較研究として、観光目的地としての潜在的な可能性をもつ熊野古道大辺路ルートを調査する。結果として、運営上のキャパシティの設定方法、旅行者への価値提供の範囲設定、総合的な運営システムの構築などからなるメカニズムを解明し、サステナブル・ツーリズム研究および持続可能な観光目的地の計画および開発の発展に寄与する。

●活動報告・実績

本研究は、Ritchie & Crouch(2003) が示した Steps to Destination Success（StDS）に着目し、ビジョン設定、行動指針、実施計画などのディスティネーション・マネジメントシステムについて、サステナビリティを視座に、組織間連携を中心として調査・研究を実施した。具体的には、明確なコンセプト設定のもとコース開発や運営が行われる済州オルレの手法を導入した九州オルレについて、年１回実施されるオルレフェスティバルにおけるアンケート調査、コース管理者とともにコースを視察しながら意見交換する方法など、量的データ及び質的データの収集を行なった。また、比較対象として宮城オルレでの新コース開設時における体験的調査、広域の観光目的地としての潜在的な可能性をもつ熊野古道大辺路ルートにおけるコンセプト設定に関わる現地視察調査を実施した。
成果の一部を下記に示す通り公開した。第一に、[1] の学会報告では、レジャー研究の観点から歩くコンテンツ全般への研究展開について積極的なコメントをいただき、研究深化への示唆をえた。第二に、[2] の論文掲載では、2022 年度オルレフェスティバル（年１回、全 18 コースが何らかの形で運営に関与）におけるアンケート結果を認定コース運営協議会から共有いただき、分析結果から参加者の傾向を示した。また、2023 年度オルレフェスティバルのアンケート設計への参与観察に繋がった。第三に、[3] の論文掲載では、オルレのコース開発および運営のコンセプトとして、「ハッピートライアングル」（地域の自然、地元住民・地元事業者、来訪者が相互に繋がり、それぞれに成果をシェアすること）を示し、StDS との関係性について議論したのち、ディスティネーションマネジメント、ソーシャルビジネス、レジャー＆ツーリズムの３つの論点と研究課題として今後の展開方向性を示した。
本研究を推進するなかで、学術的な側面はもちろん、コース開発や運営に関わる実務者やオルレを愛好する方たちから多くの示唆をえて、「歩く観光」として研究を発展させるきっかけ得た意義深い調査・研究となった。

学会報告及び論文掲載

[1] 八島雄士，金宰ウク，豊島茂．「観光目的地に関係する組織間連携の実際 ー九州オルレの取り組みを事例にー」．余暇ツーリズム学会 2023 年度全国大会自由論題報告，2023.10.29，流通科学大学
[2] Kim, J.W., Yashima, Y. & Toyoshima, S. (2024). Challenges of Kyushu Olle as a sustainable tourism resource: A questionnaire-based survey in Japan. Wakayama Tourism Review 5. 21-23
[3] 八島雄士，豊島茂，金宰ウク．(2024).「ウォーキングツーリズムと地域発展の研究と研究可能性ー九州オルレの取り組みー」.『余暇ツーリズム学会誌』11. 105-112.

2.1.2. 出版

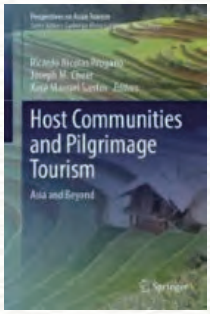
2.1.2.1. 「Wakayama Tourism Review Vol.5」発刊

Wakayama Tourism Review (WTR) は、CTR研究員およびCTR客員フェローらによる研究論文や調査レポート等を収録したCTR発行の全英文のジャーナルである。年１回の発行で、今年度は計8本が収録された。オンライン版を一般公開しており、CTRウェブサイトから閲覧可能。
https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/resource/publications/WTR.html

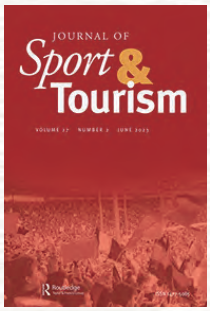
2.1.2.2. CTR研究員の主な出版業績一覧

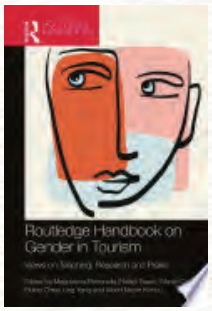
CTR研究員の主な出版業績は以下の通り。なお、現学内研究員の業績詳細は、本学ウェブサイト内、研究者総覧ページ(https://researchers.center.wakayama-u.ac.jp/search?m=home&l=ja)参照。

＜著書＞

出版年月	タイトル　[] 内はジャーナル名 著者　* は CTR 研究員
2023年4月  	Host communities and pilgrimage tourism: Asia and beyond [Springer Singapore]
	Ricardo Nicolas Progano*, Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama City, Japan Joseph M. Cheer*, School of Social Sciences, Western Sydney University, Penrith, Australia Xosé Manuel Santos, Department of Geography, University of Santiago de Compostela, Santiago de Compostela, Spain.

＜研究論文＞

出版年月	タイトル　[] 内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、() 内は Scopus CiteScore 2022 著者　* は CTR 研究員
2023年5月 	Getting smart? a research note into smart tourism curriculum and implications on Generation Alpha and Beta [Journal of Smart Tourism] Aaron Tham*, School of Business and Creative Industries, University of the Sunshine Coast, Queensland, Australia Husna Zainal-Abidin*, Center for Tourism Research, Wakayama University,Wakayama-City, Japan.
2023年7月  	Predicting Japanese sport tourist behaviour: An extension of theory of planned behaviour with tourism ideal affect [Journal of Sport & Tourism] ※ (3.6) Eiji Ito*, School of Health and Sport Sciences, Chukyo University, Toyota, Japan / Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama, Japan
2022年8月	赤穂シティマラソンオンライン大会におけるのめり込みと参加意図の関連性 [生涯スポーツ学研究] 山口 志郎（流通科学大学人間社会学部、ブリュッセル自由大学体育・理学療法学部） 伊藤 央二 *（中京大学スポーツ科学部、和歌山大学国際観光学研究センター）
2023年9月 	The effects of temporal distance and post type on tourists' responses to destination marketing organizations' social media marketing [Tourism Management] ※ (22.9) Kaede Sano*, Faculty of Tourism, Wakayama University; Center for Tourism Research Wakayama University Hiroki Sano*, Faculty of Business Administration, Ritsumeikan University; Center for Tourism Research, Wakayama University Yuji Yashima*, Faculty of Tourism, Wakayama University; Center for Tourism Research, Wakayama University Hajime Takebayashi*, Faculty of Tourism, Wakayama University; Center for Tourism Research, Wakayama University

出版年月	タイトル　[] 内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、() 内は Scopus CiteScore 2022 著者　* は CTR 研究員
2023年11月 	Digital cultural tourism: Older adults' acceptance and use of digital cultural tourism services [Scandinavian Journal of Hospitality and Tourism] ※ (7.4)
	Aarni Tuomi*, Hospitality Business, Haaga-Helia University of Applied Sciences, Helsinki, Finland; Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama, Japan Elina Moreira Kares, Service Business Development and Design, Haaga-Helia University of Applied Sciences, Helsinki, Finland Husna Zainal Abidin*, Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama, Japan
2023年11月 	Aikido tourism development in Tanabe, Wakayama, Japan [Tourism Cases]
	Eiji Ito*, School of Health and Sport Sciences, Chukyo University, Toyota, Aichi, Japan
2023年12月  	Tourists' willingness to contribute to smart tourism: A construal level theory perspective [Journal of Hospitality and Tourism Insights] ※ (4.5)
	Hao Sun*, Faculty of Tourism, Wakayama University; Center for Tourism Research Wakayama University Kaede Sano*, Faculty of Tourism, Wakayama University; Center for Tourism Research Wakayama University
2024年2月	(PART 1: TEACHING AND LEARNING GENDER IN TOURISM) Gender and religion in tourism education: Experiences of female Muslim university students studying tourism in the West　[Routledge Handbook on Gender in Tourism: Views on Teaching, Research and Praxis, Routledge]
	Husna Zainal Abidin*, Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama, Japan Ireena Nasiha binti Ibnu, Faculty of Communication & Media Studies, Universiti Teknologi MARA, Shah Alam, Malaysia

＜書評＞

出版年月	タイトル　[] 内はジャーナル名 著者　* は CTR 研究員
2023年9月	KLIEN, Susanne: Urban Migrants in Rural Japan: Between Agency and Anomie in a Post-growth Society [Geographical review of Japan series B]
	YAMAGISHI Daijiro*, Support Office for Tourism Education and Practice, Faculty of Tourism, Wakayama University

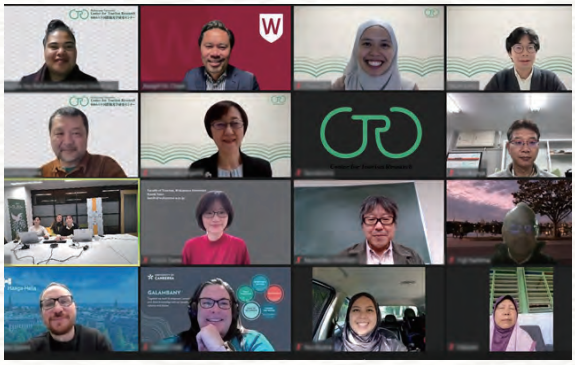
2.1.3. 短期研究員招へい制度

短期研究員招へい制度は、本学研究者との共同論文執筆、共同研究、外部資金獲得などの可能性の高い研究者を最大2週間程度招へいし、CTRを拠点としてさまざまな研究交流を通じて観光学研究の活性化、高度化を図ることを目的としている。CTR研究員の推薦に基づき、前年度の招へいが延期となっていた1名を2023年度に受け入れし、ワークショップ等への登壇やCTR研究員や学生との交流を持った。

●Dr. Pablo Pereira-Doel (University of Surrey, UK)

7月24日（月）～8月4日（金）に渡って来学し、CTRが実施するワークショップシリーズ2023（25ページ参照）や観光学部でのセミナーに登壇した他、本学研究員との共同研究に関する打ち合わせや本学学生への研究指導助言を行った。また今回の招へいでは、本学研究員とイギリスで実施しているホスピタリティ分野における持続可能性と環境保護行動に関する共同研究が、和歌山の地域関係者や企業との面談を経て、日本国内での研究実証への取り組みが進むこととなり、今後長期的な共同研究の実施が期待される。

2.1.4. 「2023年度CTRリサーチフォーラム」開催



本フォーラムは、主にCTRが支援助成する共同研究支援プログラムの中間報告として実施するものであり、6回目となる今回は11月17日（金）に採択課題4件の中間報告が行われた。また、本学観光学研究科博士後期課程の学生3名による研究発表も行った。コロナ禍以降、オンライン開催の形式を取り、客員フェローを含め学内に留まらないオープンな場の発表としており、国内外より多くの研究者が参加した。本学客員教授であるJoseph M. Cheer教授（ウェスタンシドニー大学）もオーストラリアから参加し、研究発表や報告に対する質疑およびコメントを残され、今後の研究活動への期待も述べられた。

2.1.5. イベントの企画・運営

●「CTR観光教育フォーラム2023」開催

12月12日（火）に、CTRが掲げる研究重点分野の１つである「観光教育」について国内外の観光学プログラムを有する機関を対象とした「観光教育フォーラム2023」を対面とオンラインのハイブリッド形式で実施した。今回のフォーラムでは「共に創る未来の観光教育と人材の育成」をテーマとし、基調講演には、UN Tourism AcademyのTedQual監査員であるエディス・ジーバス氏が講師として登壇し、世界各国の観光教育・訓練の事例を紹介するとともに、UN Tourism Academyが実施する認証制度「UN Tourism TedQual（Tourism Education Quality）」による観光教育の質の向上について重要な視点を提示した。
基調講演後の話題提供においては、CTRセンター長の東 悦子教授をモデレーターとして、日本国内でTedQual認証を取得した４つの教育・訓練機関より、立命館アジア太平洋大学の轟 博志教授、大阪観光大学の小槻 文洋教授、中村国際ホテル専門学校の西田 宗弘副校長、そして本学の大浦 由美教授が登壇し、それぞれの機関の教育目標やカリキュラム、観光の教育実践等について紹介した。またその後のディスカッションではエディス・ジーバス氏も再び登壇し、観光教育における現在の課題や今後について議論がなされ、示唆に富む展開となった。

●「CTR International Symposium Series 2023-2024」開催

CTRが昨年度より開催している国際シンポジウムシリーズの第2回を、1月16日（火）に本学会場からの配信形式で開催した。今回は「Current issues and future prospects in responsible tourism management（責任ある観光マネジメントの現状と今後の展望）」をテーマに、高等教育機関、産業界、地域社会等から経験豊かな専門家４名が講師として登壇し、話題提供とパネルディスカッションを行った。

株式会社ANA総合研究所の阿部 信一取締役会長は、ANAグループが目指す地域創生や、ONSENガストロノミーツーリズム等の事例を挙げ、地域資源とイノベーション・デジタルの活用について述べた。株式会社アワーズ取締役の中尾 建子アドベンチャーワールド副園長は、企業理念やビジョンを元に地域や教育機関と連携し実施するSDGsに関する取り組みの紹介とともに、責任あるマネジメントについて経営側からの視点を提示した。そして関西エアポートオペレーションサービス株式会社取締役社長であり、地域創生を目的として創業されたつくも株式会社の石川 浩司代表取締役より、現在のオーバーツーリズム問題等をあげつつ、まちあるきから見える観光地の再興や地域活性化の可能性が提示された。最後に、和歌山大学観光学部専門職大学院の木村ともえ准教授は、地域の価値再認識の重要さと、地域側や旅行者側、それぞれが持つべき責任ある観光の認識について述べた。パネルディスカッションでは、CTR副センター長である佐野 楓准教授がモデレーターを務め、責任ある観光マネジメントに関して、その意義や今後の課題について議論がなされ、有意義な討議の場となった。

2.2. 研究・教育サポート

2.2.1. 研究力養成支援

●大学院生および若手研究者向けワークショップ実施

博士課程に在籍する学生および若手研究者向けに、観光学研究における研究手法や調査方法等について実践的な情報や知見を講義形式で提供するワークショップを実施した。主にCTR研究員が講師を担当し、全4回のワークショップシリーズを開催、全ワークショップに参加した視聴者に対し参加証明書(Certificate)を発行した。

●Session 1「Experimental research in tourism and hospitality」

7月27日(木)にCTR客員フェローであり短期招へい研究員として来学したPablo Pereira-Doel氏(イギリス・サリー大学)が講師を担当。自身の研究事例を元に、観光ホスピタリティ分野におけるデータ収集や統計分析等の実験的研究の手法が紹介された。

●Session 2「Archival research methods & 3-Dimensional reconstruction for heritage and cultural research」

8月29日(火)にCTR客員フェローであるNurdiyana Zainal Abidin氏(マレーシア・マラヤ大学)とNabilah Zainal Abidin氏(マレーシア・マレーシア工科大学)が来学し講師として登壇。観光学研究の切り口の一つとして、自身の研究を通したアーカイブ調査研究や3Dを用いた文化遺産研究について、事例が紹介された。

●Session 3「Using biometrics in tourism and hospitality research」

10月11日(水)にCTR専任研究員であるHusna Zainal Abidin特任講師が講師を担当。バイオメトリクス(生態)認証を使った調査方法の種類や分析の利点と制限、また倫理的観点からの懸念など、観光・ホスピタリティ研究におけるバイオメトリクス認証の活用方法についての知見が提供された。

●Session 4「Conducting consumer research in Japan」

12月11日(月)にCTR副センター長である佐野 楓准教授(観光学部)が講師を担当。観光学研究の中でも特にマーケティング研究の一つである消費者調査について、日本で実施するにあたっての手法や現地調査の視点や考え方等、自身が行ったSNS投稿に関するマーケティング調査を事例として情報が提供された。

2.2.2. イベント開催支援

●第6回日本国際観光映像祭

2019年よりCTR研究員の木川 剛志教授(観光学部)がディレクターを務め、CTRも共催として参加する「日本国際観光映像祭」が北海道釧路市阿寒湖アイヌシアター「イコロ」を会場に開催、ハイブリッド形式で国内外へもライブ配信された。6回目を迎えた本年のテーマは「美しき人々、生きる学びの空間へ」とし、コロナ禍後世界で観光が再び拡大する今、地域文化を発展させるための観光との適切な関係等について、議論が交わされた。また、国内部門242本、国際部門 1,036本におよぶ観光映像の応募があり、映像作品の表彰やART & Factory Japanのコンペティション等の多彩なプログラムで構成され、これまで同様に盛会であった。

2.2.3. 観光学部等授業科目の開講支援

CTR専任研究員が、観光学部及び観光学研究科の一部科目(観光学部科目に関してはグローバル・プログラム(GP)対象科目)の開講を支援した。2023年度開講科目は下記の通り。

観光学部科目名	担当者
Community Based Tourism	Husan Zainal Abidin

観光学研究科科目名	担当者
Tourism and Heritage Management (M)	Ricardo Nicolas Progano

2.2.4. 委託事業「JICA課題別研修」実施

「JICA課題別研修」とは、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業の一つで、日本側が研修内容を企画・計画し開発途上国に提案、研修員を募集するものである。CTRでは2023年からJICA関西より委託を受け、課題別研修「中央アジア地域広域観光開発政策」を実施する。

本研修は、中央アジア5カ国（カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン）における広域観光開発を進めていく体制づくりを目的とし、各国より行政や民間の観光従事者が研修員として参加し、日本の観光に関する取り組みや日本版DMOの仕組み、また和歌山県や熊野古道の観光誘致戦略や文化・歴史遺産の保全、人材育成に焦点を当てた講義を受講し、フィールドワークやグループワークを行うものである。

1年目である2023年度は、9月4～7日の遠隔研修（オンライン研修）と10月11～31日の現地研修（本邦研修）を行った。現地研修では、観光庁やUN Tourism駐日事務所、和歌山県、和歌山県世界遺産センターによる講義のほか、田辺市熊野ツーリズムビューロー協力の下、フィールドワークとして世界遺産である高野山や熊野古道、白浜空港等を訪問した。現地の観光従事者に直接話を聞く機会を設け、熊野古道を参詣し道普請を行う等、様々な角度から観光やDMOについて学ぶ機会を得た。その後、講義やフィールドワークで学んだ知識や経験をもとに、研修員各自が自国の観光における強みや弱みを分析・討議し、最終日には各国毎にアクションプランや施策提案を発表した。施策の実現には各国の連携やインフラ面での課題が多いものの、今回の研修を通して各国の現状理解につながったことは、5カ国が連携した広域観光開発に向けての一歩となった。

2.2.5. 海外研究教育機関との提携

12月20日(水)、21日(木)の2日間にわたり、東 悦子CTRセンター長(観光学部教授)、佐野 楓CTR副センター長(観光学部准教授)および中元 一恵国際交流課課長の3名がマレーシアのサラワク地区にある大学および研究機関を訪問した。教員や国際交流課スタッフと面談し、学生間交流を含む今後の連携可能性について協議した他、サラワク地区の副知事とも面会し、地域社会との連携の可能性についても意見交換がなされた。本訪問を受け、本学とi-CATS大学、マレーシアサラワク大学それぞれの大学間で交流協定が締結され、3月18日(月)には本山 貢学長が現地を訪問しi-CATS大学、マレーシアサラワク大学にて調印式を行った。i-CATS大学の観光ホスピタリティ学部は、観光分野での学術研究において本学観光学部との共通点が多く、すでにCTR研究員との間で共同研究の実績があり、今後も継続的な共同研究が期待できる。またマレーシアサラワク大学は、観光分野の修士・博士課程を有しており、共同研究のみならず、交換留学などの学生間交流においても今後の連携が期待される。

2.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー

2.3.1. 学会スポンサー参加

●APTA Annual Conference 2023

7月５日（水）から７日（金）にわたってタイ・チェンマイにて、Asia Pacific Tourism Association (APTA)の年次大会が開催された。APTAは1995年に創設された国際学会で、有力学術雑誌Asia Pacific Journal of Tourism Researchを発行する等など、アジア太平洋地域で最も活発な観光研究の国際学会の1つと言える。本学からは客員ジュニアフェローである孫 昊氏（観光学研究科博士後期課程2年）が参加しポスター発表を行った。また本学では2015年よりスポンサーとしてAPTAの年次大会に協賛しており、会場内バナーへのロゴ掲載他、ウェブサイトや学会プログラムに広告が掲載された。

●国際会議「ICServ2023」会

9月14日（木）から16日（土）にわたって東京工業大学にて、国際会議「The 8th International Conference of Serviceology (ICServ 2023)」が開催された。2012年にサービスに関する広範な知識を体系化し、様々な産業課題の解決に寄与することを目的として設立された国内学会のサービス学会が主催するものであり、本会議にCTRは協賛として参加した。会期中はCTR専任研究員のHusna Zainal Abidin特任講師が同会議に出席し、参加者との情報交換を行った。

2.3.2. 外部機関との連携促進

●Pacific Asia Tourism Association との連携促進

Pacific Asia Tourism Association（太平洋アジア観光協会：PATA) は主にアジア・太平洋地域における旅行・観光の促進と責任ある観光事業の発展を目的とした非営利団体であり、本学は2013年12月より加盟している。12月19日（火）にタイ・バンコクにあるPATA 本部に、東 悦子CTRセンター長（観光学部教授）、佐野 楓CTR副センター長（観光学部准教授）および中元 一恵国際交流課課長の3名が訪問した。2023年10月より着任した新CEOのNoor Ahmad Hamid氏や他3名のスタッフと面会し、様々な共同研究・プロジェクトの可能性が協議された。
また12月に行われた理事会選挙において、投票の結果、本学がMembers at Large Categoryにて理事会メンバー（代表：加藤 久美観光学部教授）に選出された。 2024年5月に行われるPATA Annual Summit内の年次総会（Annual General Meeting）において最終承認され、2024年～ 2026年まで2年間の任期を務める。

●UN Tourism本部訪問

9月18日(月)にスペイン・マドリードにある国連世界観光機関(UN Tourism)本部に、東 悦子CTRセンター長(観光学部教授)、中元 一恵国際交流課課長および寺本 匠国際交流課副課長の３名が訪問した。アジア太平洋地域担当のChrisine Brew氏を始め6名のスタッフと今後の研究者及び学生の交流や派遣について意見交換を行い、双方のイベント参加等への協力を積極的に行う事の確認をした。

2.3.3. イベント開催協力

●日本学研究教育センター実施「ブリッジウォーター州立大学短期研修プログラム」に協力

本学が大学間交流協定を結ぶアメリカ・ブリッジウォーター州立大学の学生と教員10名が来学し、日本学教育研究センター (CJS) において短期研修プログラムが実施された。5月18日には、CTR専任研究員のHusna Zainal Abidin特任講師が「Tourism Management – Theory in Practice」のタイトルで講義を行った。

2.3.4. 学会、イベント参加

CTRスタッフが出席したイベントは以下の通り。なお、CTR研究員が研究発表等で参加した主な学会およびイベントは、CTRウェブサイト内、お知らせ記事に掲載。
https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/news-category/notice/

日程	イベント名	主催
7月5日～7日	Asia Pacific Tourism Association Annual Conference 2022 スポンサーシップ参加 (タイ・チェンマイ)	Asia Pacific Tourism Association (APTA)
8月8日	「第23 回UNWTO 活用検討会」出席 (東京)	観光庁
9月14日～16日	The 8th International Conference of Serviceology (ICServ 2023) スポンサーシップ参加・出席 (東京)	サービス学会
10月26日～27日	ツーリズムEXPO ジャパン参加 (大阪)	公益社団法人 日本観光振興協会、一般社団法人 日本旅行業協会 (JATA)、日本政府観光局 (JNTO)
3月22日	「第24 回UN Tourism 活用検討会」出席(東京・オンライン)	観光庁

2.3.5. 運営・企画イベント一覧

開催日	イベント名称 / 講師等	ポスター
7/27(木)	CTR workshop series for students and young researchers 2023 Session 1「Experimental research in tourism and hospitality」 スピーカー: Pablo Pereira-Doel(サリー大学ホスピタリティ・インフォメーション・テクノロジー 講師/和歌山大学国際観光学研究センター 客員フェロー) モデレーター: Husna Zainal Abidin(和歌山大学国際観光学研究センター 特任講師)	
8/29(火)	CTR workshop series for students and young researchers 2023 Session 2「Archival research methods & 3-Dimensional reconstruction for heritage and cultural research」 スピーカー: Nurdiyana Zainal Abidin(マラヤ大学建築環境学部 上級講師) Nabilah Zainal Abidin(マレーシア工科大学マレー世界建築環境研究センター(KALAM)博士研究員) モデレーター: Husna Zainal Abidin(和歌山大学国際観光学研究センター 特任講師)	
10/11(水)	CTR workshop series for students and young researchers 2023 Session 3「Using biometrics in tourism and hospitality research」 スピーカー: Husna Zainal Abidin(和歌山大学国際観光学研究センター 特任講師) モデレーター: 佐野 楓(和歌山大学観光学部 准教授/国際観光学研究センター 副センター長)	
12/11(月)	CTR workshop series for students and young researchers 2023 Session 4「Conducting consumer research in Japan」 スピーカー: 佐野 楓(和歌山大学観光学部 准教授/国際観光学研究センター 副センター長) モデレーター: Husna Zainal Abidin(和歌山大学国際観光学研究センター 特任講師)	

開催日	イベント名称 / 講師等	ポスター
12/12(火)	CTR観光教育フォーラム2023「共に創る未来の観光教育と人材の育成」 基調講演者: Edith M Szivas(UNWTO.TedQual Certification Auditor for the UNWTO Academy) 話題提供者: 轟 博志(立命館アジア太平洋大学サステイナビリティ観光学部 教授) 小槻 文洋(大阪観光大学観光学部 教授) 西田 宗弘(中村国際ホテル専門学校 副校長) 大浦 由美(和歌山大学観光学部 学部長/教授) モデレーター: 東 悦子(和歌山大学国際観光学研究センター センター長/観光学部 教授)	
1/16(火)	CTR International Symposium Series 2023-2024「Current issues and future prospects in responsible tourism management(責任ある観光マネジメントの現状と今後の展望)」 話題提供者: 阿部 信一(株式会社ANA総合研究所 取締役会長) 中尾 建子(株式会社アワーズ取締役(SDGs担当)白浜事業所長、アドベンチャーワールド 副園長、獣医師・学芸員) 石川 浩司(関西エアポートオペレーションサービス株式会社 取締役社長) 木村 ともえ(和歌山大学観光学部専門職大学院 准教授) モデレーター: 佐野 楓(和歌山大学国際観光学研究センター 副センター長/観光学部　准教授)	
3/13(水) ～15(金)	「第6回　日本国際観光映像祭」 スピーカー: 木川　剛志(日本国際観光映像祭ディレクター/和歌山大学観光学部教授) 福島 真希(日本国際観光映像祭審査委員長(日本部門)/ 映像ディレクター) Kyung Wook Seo(日本国際観光映像祭審査委員長(国際部門)/ Associate Professor, Northumbria university, UK) 松崎 まこと(映画活動家/放送作家) 宮田　耕輔(月刊ウララ編集長)他	

CENTE
FOR
TOURIS
RESEA

［発行］和歌山大学国際観光学研究センター
〒640-8510 和歌山市栄谷930
TEL.073-457-7025
https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/

［発行日］2024年8月

Wakayama University
Center for Tourism Research

2023年度 年次報告書
和歌山大学 国際観光学研究センター